

御池通の概要

現在の二条城から三条通の辺りまでであった神泉苑の中に御池と呼ばれる池があり、その池に通じていた道であることから、江戸時代の中期に御池通と呼ばれるようになったと考えられています。

当時は、絹問屋や刀関係の職人が集まる活気のある通りであったといわれています。

近代の御池通

第二次世界大戦末期の昭和20年に御池通の鴨川西岸から堀川通までの民家に対して、空襲からの類焼防止策のため強制疎開が実施されました。

御池通が強制疎開の対象として選ばれた理由は、戦前に拡張整備が行なわれていた丸太町通、四条通の間に類焼防止帯を設けると考えに基づいたものでした。

強制疎開後の御池通 (烏丸御池から西を望む)

終戦後の御池通

昭和22(1947)年に幅員50メートルの都市計画道路として活用することが定められ、事業の完了以降、京都の市内幹線道路として機能し、沿道には業務系の高層の建築などが建ち並びました。

昭和30年代には、祇園祭の見物客増加に伴い、山鉦巡行ルートが広幅員の御池通に変更され、祇園祭・時代祭の巡行ルートとなるなど、京都の『はれ』の道として親しまれてきました。

時代祭のようす

近年の御池通

京都市では、鴨川から堀川通間の御池通を京都のシンボルロードとしてふさわしい道路とするため、平成9年から15年に街路整備事業を実施し、更に、にぎわいの創出と景観形成に向けた取組を検討するため、平成14年10月に地元住民、沿道事業者、商工会議所、学識経験者及び行政で構成する「御池沿道関係者協議会」を設置して議論を重ね、平成16年8月にシンボルロード活性化のための具体的な目標と実現化の方策をまとめました。

現在は、これに基づき、それぞれの役割分担によって具体的な取組を進めています。

御池通の位置

御池通界わいの町名由来

※押小路通から姉小路通を含む町名を掲載しました。現在の町内会と名称や範囲が違う町もあります。

- 1 西押小路町** (にしおしこうじょう) 由来は通り名にちなんでいますが、「西」の字が冠された理由は不明です。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 2 塗師屋町** (ぬしやちやう) 塗師が多く居住したことによると思われます。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 3 仲保利町** (なかほりちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に「中ほり丁」とあります。
- 4 船屋町** (ふなやちやう) 当町から祇園会に船形の手鉦を出していたことにより、維新前までは毎年祭日に、封物を贈る例がありました。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 5 左京町** (さきやうちやう) 奈良の鑄造工「藤原左京」が住んでいたことにより、「洛中絵図(1637)」で既に「左京ノ丁」とあります。
- 6 高田町** (たかたちやう) 親鸞の弟子たかたの覺信房を開基とする、高田寺が当初東にあったことにより、「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 7 高宮町** (たかみやちやう) 近世、当町に近江高宮の綿布を商う拠点があったことにより、「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 8 柵町** (さくちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に「柵木丁」とありますが、その後、柵屋町と呼ばれていたこともありました。
- 9 竹屋町** (たけやちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。昔、漆問屋の押小路通から三条通の間に材木屋が多かったことに関係があると思われます。
- 10 扇屋町** (あふぎやちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。昔、漆問屋が邸内に勧請した御所八幡神社があったことにより、「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 11 御所八幡町** (ごしよはちまんちやう) 定利尊氏が邸内に勧請した御所八幡神社があったことにより、「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 12 虎石町** (とらいしちやう) 昔、親鸞上人が住んでおり、その庭の築山泉水の石に、虎に似た石があったことにより、「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 13 東八幡町** (ひがしはちまんちやう) 御所八幡神社の東側にあたるためと思われます。「洛中絵図(1637)」で「東八幡横丁」とあり、「京雀(1665)」で「東八まん丁」とあります。
- 14 橋町** (たばなちやう) 昔、橋屋(遊女屋)がありましたが六条三筋町へ移ったことから、花が立ち回ったので立花町と名づけられたようです。「洛中絵図(1637)」で既に「たちはな丁」とあります。
- 15 守山町** (もりやまちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に「森山町」とあります。
- 16 上白山町** (かみはさんちやう) 白山神社があることにより、「洛中絵図(1637)」で既に「上ノ白山町」とあります。
- 17 亀屋町** (かめやちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 18 榎木町** (えのきちやう) 由来は不明。「京町鑑(1762)」で既に現町名が見られます。
- 19 上本能寺前町** (かみほんのうじまえちやう) 天正15年(1587)、六角西洞院にあった本能寺がここに移転してきたことにちなみ、寺域が拡大したためです。「京雀(1665)」では「ふなひり一丁目」とあり、「京町布令書(明治元年)」で現町名が見られます。
- 20 一之舟入町** (いちのふないりちやう) 慶長16年(1611)、角倉了以が高瀬川の開削をした際に船溜りである一舟入がここにあり、「京雀(1665)」では「ふなひり一丁目」とあり、「京町布令書(明治元年)」で現町名が見られます。
- 21 上樺木町** (かみこぎちやう) この町筋の上下に樺木炭材木を商うお店があったことにより、「京大絵図(1741)」で既に「上こり木丁」とあります。
- 22 梅屋町** (うめやちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 23 車屋町** (くるまやちやう) 車借業者(荷車を物資を輸送する運送業者)が多かったことにより、「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 24 笹屋町** (さきやちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 25 綿屋町** (わたやちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 26 亀甲屋町** (きっこうちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 27 木之下町** (きのしたちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」などの江戸初期の資料では全て「若狭屋町」とあります。「洛中洛外図(1705)」で既に現町名が見られます。
- 28 丸木村木町** (まるきざいもくちやう) 堺町通の押小路通から三条通の間に材木屋が多かったことにより、「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。材木屋が多い地域の中央にあたり、中材木町とも呼ばれていました。丸木が付いているのは、丸木を商う材木屋が多かったからかもしれません。
- 29 柳八幡町** (やなぎはちまんちやう) 御所八幡神社があったこと由来します。「洛中絵図(1637)」では「八幡丁」とあります。柳を冠したのは明治になってからで、通り名に由来すると思われます。
- 30 菊屋町** (きくやちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。「京雀(1665)」で「つくり花購入が居た」とあるため、関係があるかもしれません。
- 31 松下町** (まつしたちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に「松ノ下町」とあります。
- 32 御池大東町** (おいけだいとうちやう) 御池は通り名にありますが、大東の由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に現町名が見られます。
- 33 中白山町** (なかはさんちやう) 町内に白山神社があったことにより(現在、白山神社は上白山町の東側北辺にあり)、「洛中絵図(1637)」で既に「中ノ白山町」とあります。
- 34 姉大東町** (あねだいとうちやう) 姉は通り名にありますが、大東の由来は不明。「洛中絵図(1637)」で既に「姉小路大東丁」とあります。
- 35 大文字町** (だいもんじちやう) 由来は不明。「洛中絵図(1637)」では「大門守町」とあり、「京雀(1665)」で「大もんじ町」とあります。
- 36 下本能寺前町** (しもほんのうじまえちやう) 天正15年(1587)、六角西洞院にあった本能寺がここに移ってきたことにより、寺域が拡大したためです。上本能寺前町・下本能寺前町の二町に分けました。
- 37 下丸屋町** (しもまるやちやう) 由来は不明。「京雀(1665)」では「ふくろ町」とあり、「京大絵図(1741)」で「下丸や丁」とあります。
- 38 上大阪町** (かみおおさかちやう) 慶長の開削の際(徳川家康の領)、浪華より新渡の陸人が多く出たことにより、「京大絵図(1741)」では「おおさか」とあり、「京町布令書(明治元年)」で現町名が見られます。

町名の由来を調べてみると、そこから地域の歴史や営みが見えてきます。その由来に関係した建物や石碑なども残っていることがわかりました。あなたがお住まいの町名やご存知の町名はありますか？

●戦前まで御所八幡宮は堺町通にありました

【御所八幡町】
応神天皇、神功皇后、比売(ひめ)神の三神を祀っており、足利尊氏邸内の守護神として勧請したと伝えられることから御所八幡宮と呼ばれています。太平洋戦争中の強制疎開に伴い、御池通堺町西南角から現在の御池通高倉東南角に移転されました。安産と幼児の守り神として有名で、「糶(かん)のむし」に効くとして「むし八幡」と呼ばれ信仰を集めています。

●親鸞上人住生の地と言われています

【虎石町】
虎石は虎を伏せた姿に似た石で、当町にあった善法院の井戸から見つかり、親鸞上人がたいそう愛されたと伝えられています。親鸞上人の住生の地とも言われています。善法院は後に法泉寺となり柳池の拡張に伴い移転しましたが、「見真大師達化之旧跡」の碑は現在も建っています。

資料提供：京都市歴史資料館

●白山神社は歯痛に効くと言われています

【上・中白山町】
白山神社は、平安時代末期に石川県白山の僧侶が3基の神輿を担いで強訴に及んだが聞き入れられなかったため、神輿を放置して帰山、その神輿を祀ったのが創建と言われています。江戸中期、歯痛で悩んでいた後醍醐天皇(最後の女帝)に宮中の女官が白山神社のお箸とお塩を献上したところ歯痛が平癒したと伝えられることから、歯痛に御利益があるとされています。

●本能寺の変はどこ？

【上・下本能寺前町】
本能寺は、1415年に油小路高辻で創建され、本応寺と号しました。1433年に四條坊門大宮に移って本能寺と改め、1582年の「本能寺の変」の時には四條西洞院にありました。北は六角、南は錦小路、東は西洞院、西は油小路に囲まれた広大なお寺でした。その後、豊臣秀吉の命により、現在の寺町御池に移転してきました。

●京都の通りと町

京都の都心部では普通通り名を使って場所を表します。ですから意外と身近な町名を知らない方もいらっしゃいます。通りは平安時代から変化をしながら今に至り、町は通りを挟んだ両側のコミュニティがまとまり「両側町」として成立してきました。そのため一つの町の面積は他地域より小さく、複雑な区域分けになっています。

昔は同業者がたまたまて商売をすることが多く、商業集団を町名にした町もありました。そのため現在でも同じ町名が点在しています。また、町が道路で分断され、町の大半が道路となった町もありました。そのため町名だけで場所を特定することが困難になっています。

そういった経緯から日常の会話や祭などの行事の舞台となっている通りで場所を表した方が多くの住民にとって親しみがあるのです。

手紙を出すときは、郵便番号が書いてあれば「通り」だけでも届きます。公的には通りを書かなくてもよいのですが、「京都市中京区寺町通御池上本能寺前町488番地」のように通りと寺町通と御池通の交差点から北へ上がった上本能寺前町だと位置を見当できます。

甚盛目状に通りが残る京都ならではの表現です。ちなみに南に行くことを「下る」、東や西に行く事をそれぞれ「東入る」「西入る」と言います。

このマップについて

●参考文献
京都市町名変遷史 (京都市町名変遷史研究所)

御池通界わいの今昔マップ

烏丸通〜鴨川界わいの編

このマップについて

●御池通沿道のマップづくりワークショップ

御池通界わいの大切にしたいもの、楽しい思い出、地域の誇り、身近な歴史など、御池通の魅力や地域の誇りを伝えるマップづくりを目指して、平成16年12月からワークショップを開催しました。ワークショップには、現在この界わいに住んでおられる方だけでなく、かつて住んでおられた方や、沿道の事業者の方など約50名にご参加いただきました。

●界わいごとのテーマ

このマップは、御池通を3つに分け、それぞれの区間ごとに設けた班で意見を交わしながら制作しました。そして、班ごとに交わされた意見をもとに、今後の御池通の発展や、これまでの記憶として必要であろうと考えられる項目を各班ごとに整理し、ひとつの記録誌としてまとめました。

●御池通界わいの今昔マップ

【発行】都市計画局都市企画部都市づくり推進課
電話(075)222-3503
http://www.city.kyoto.jp/lokal/todu/index.htm
平成17年12月20日発行 京都市印刷物第174318号

●町名の由来 ●地名の由来 ●町名の由来
●地域の名所 ●地域の史跡 ●地域の史跡
●地域の家 ●井戸 ●柳池校
●昔の御池通周辺 ●昔の御池通周辺 ●昔の寺町通周辺

百歳記念100周年を記念して